

学校法人 加計学園  
平成18年度事業報告  
【倉敷芸術科学大学】

## I. 事業の概要（全般）

### 《申請関係》

平成18年度入試で志願者の多かった生命科学部生命動物科学科については20名定員増するため、芸術学部工芸・デザイン学科、産業科学技術学部起業学科について各々10名の定員減し、生命動物科学科へ定員を振替えました。

### 《人事》

- (1) 新設された生命動物科学科、年次進行中の生命科学科、健康科学科に平成18年4月1日付で新任教員の採用を行いました。
- (2) 平成18年3月31日で定年退職した石本豊氏に替わって、4月1日付で倉敷芸術科学大学専門学校校長の岡本繁通氏が事務局長に就任しました。

### 《教育研究計画》

- (1) 平成16年度改組で設置された芸術学部映像・デザイン学科、生命科学部健康科学科について、年次進行に伴う教育環境を整備しました。
- (2) 新設の生命動物科学科についても教育環境を整備しました。
- (3) 学生の満足度を上げるため従来にも増しての更なる改革、退学・除籍者の減少対策を実施し、全学で昨年86名（退学63、除籍23）から82名（退学68、除籍14）に減少させました。
- (4) 開学して12年目となるため、施設・設備の修繕等の必要が生じており、年次計画により修繕を実施しました。
- (5) 文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に、本学の取組である「人生を展望した総合的キャリア教育の実践」を申請、採択され、具体的な取り組みについて検討しました。

（実施期間 18年度～20年度 事業費 17,630千円）

### 《組織関係》

- (1) 臨床工学士養成のために医用科学教育センターを設置しました。
- (2) 法人本部に総合企画局が設置されたことに伴い、企画入試部を入試部に変更、うち企画関係の定型業務を庶務部に移行しました。

## Ⅱ. 大学の概要

### 1. 学生の定員現員数

(平成18年5月1日現在)

研究科・学部・学科等			定員数		現員数					
			入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	合計	
通 院	大 学	芸術研究科(修士)	20	40	14	6	—	—	20	
		〃 (博士)	4	12	2	2	4	—	8	
	学 部	産業科学技術研究科(修士)	16	32	10	7	—	—	17	
		〃 (博士)	4	12	4	3	2	—	9	
	院	人間文化研究科(修士)	15	30	4	5	—	—	9	
	大学院 計			59	126	34	23	6	—	63
	学 部	学 部	美術学科	40	170	42	41	44	43	170
			映像・デザイン学科	40	120	57	43	57	—	157
			工芸・デザイン学科	40	180	36	48	39	43	166
			計	120	470	135	132	140	86	493
学 部		産業科学技術学部	50	290	55	55	93	85	288	
		生命化学科	—	80	—	—	8	105	113	
		起業学科	40	120	30	34	32	—	96	
学部計		90	490	85	89	133	190	497		
部		国際教養学部	—	90	—	—	1	52	53	
		教養学部	—	50	—	—	5	25	30	
	計	—	140	—	—	6	77	83		
部	生命科学部	90	310	111	135	119	—	365		
	健康科学科	60	150	74	74	55	—	203		
	生命動物科学科	40	40	51	—	—	—	51		
学部計	190	500	236	209	174	—	619			
学部計			400	1,600	456	430	453	353	1,692	
通学制計			459	1,726	490	453	459	353	1,755	
通 信 制	大 学 院	芸術研究科(修士)	10	20	5	4	—	—	9	
		産業科学技術研究科(修士)	20	40	0	4	—	—	4	
		人間文化研究科(修士)	30	60	3	7	—	—	10	
	通信制大学院計			60	120	8	15	—	—	23
	学 部	産業科学技術学部	200	1,300	10	11	18	8	47	
		計	—	300	—	—	1	—	1	
学部計	200	1,600	10	11	19	8	48			
部	国際教養学部	—	300	—	—	2	2	4		
通信学部計			200	1,900	10	11	21	10	52	
通信制計			260	2,020	18	26	21	10	75	
留学生別科			30	30	7	—	—	—	7	
合計			749	3,776	515	479	480	363	1,837	

(単位：人)

### 2. 学年暦

	春期休業	入学宣誓式	夏期休業	冬期休業	学年末休業	学位記授与式
--	------	-------	------	------	-------	--------

倉敷芸術科学大学	4月1日 ～4月4日	4月5日	8月 3日 ～9月23日	12月19日 ～1月 7日	3月 4日 ～3月31日	3月23日
----------	---------------	------	-----------------	------------------	-----------------	-------

### Ⅲ. 各事業の概要

#### 1. 教育・研究活動の進捗状況

- (1) 一人ひとりの学生に視点をあわせた教育・指導を行い、退学者の減少に努めました。
- (2) 加計教育コンソーシアム、大学コンソーシアム岡山を活用して、他大学の特色ある講義を行い、教育効果をあげました。
- (3) 産学官連携（岡山TLO等）、高大連携を通じて、大学の地域貢献によって社会的使命を果たすと共に、外部資金の獲得にも力を入れました。

#### 《施設・設備関係》

##### (1) 建物支出（21,550千円）

- ①生命動物科学科実習室改修工事（9,500千円）
- ②健康科学科実習室整備工事（8,900千円）
- ③学芸員実習室改装工事（1,550千円）
- ④芸術・仮眠室改装工事（1,600千円）

加計美術館改修工事については、平成19年度に計画しています。

##### (2) 構築物支出（1,386千円）

- ①学生自転車置き場整備工事（777千円）
- ②エントランス広場舗装工事（609千円）

##### (3) 教育研究用機器備品支出（94,458千円）

- ①生命動物科学科実習室機器（7,561千円）
- ②生命動物科学科研究設備（22,000千円）
- ③映像・デザイン用パソコン（9,400千円）
- ④ハイビジョン対応機器（16,485千円）
- ⑤救急救命・栄養学用機器（9,355千円）
- ⑥各学部・学科教育用機器（29,657千円）

研究設備補助金採択

##### (4) 図書支出（42,781千円）

##### (5) 車両支出（3,900千円）

入学者数・卒業者数等は下表のとおりです。

入学者数一覧 (平成18年5月1日現在)

		入学者	留学生	社会人
大学院	博士	6	0	2
	修士	28	4	
大学院 (通信制)		8	0	8
学部		456	15	2
学部 (通信教育課程)		10	0	4
別科		7	7	

(単位：人)

卒業者数等一覧

		卒業 修了者 ・	退学者	満期退学者	除籍者	休学者	留年者
大学院	博士	4	1	1	0	0	1
	修士	17	2	0	0	0	0
大学院 (通信制)		10	1	0	0	1	5
学部		343	65	0	14	10	7
学部 (通信教育課程)		5	4	0	4	4	9
別科		7	0	0	0	0	0

(単位：人)

2. 学生の募集・広報

(1) 志願者目標を前年の1329名に対して、25%アップの1625名を目指し、従来の基本路線を継承しつつ、新たな取組みを行いました。

- ① 高校訪問、予備校訪問するエリアとあわせて、郵送等で対応していた県についても担当を設定し、新たな地域からの志願者発掘を行いました。
- ② 最前線で高校生、高校教員等と接する者として、広報活動とあわせて情報収集活動を強化しました。また、これらの情報を迅速に学部学科、事務局にフィードバックするシステムを構築しました。
- ③ フランチャイズ制の予備校及び本学予備校住所リストに反映されていない予備校・美術学校のリサーチと広報活動の強化を図りました。
- ④ 芸術学部では在学生からのメッセージを集めた冊子を作成して、合格者に送付しました。(新規)  
結果として、志願者増とはなりませんでしたが、昨年とほぼ同数の1303名の志願者を確保しました。

(2) 平成17年度外国人留学生在が入国審査で学費支弁能力・入学資格で問題とされ不合格とされたケースがあるので、この点に注意して19年度の留学生受け入れを慎重に進めて行きました。

3. 就職活動状況

- (1) 2、3年次生を対象に職業適性自己理解テストおよびSPI試験の受験回数を増やして自己分析を促しました。4年次生は、学部・学科・専攻・コースにより就職・進路状況が異なるため、個別相談に力を注ぎました。
- (2) 各学部ごとにスタッフを配置し、個々の学生と連絡を取り、履歴書の書き方、面接指導等に重点を置きながら指導をしました。
- (3) 企業訪問（採用情報収集、採用依頼）、医療機関への求人依頼を積極的に行いました。
- (4) 企業担当者（103社）を学内に招き、学生との個別面談等を行う学内企業懇談会を2月に3年生を対象に実施すると同時に、4年次生がこの会の運営をスタッフとして手伝い、出席企業から好印象との評価を得ました。
- (5) 4年生を対象に4月から6月にかけて35社の学内企業選考会を開催し、18社の企業から内定を得ました。
- (6) 合同就職懇談会（10月福岡、11月東京、3月大阪・広島で企業担当者と教職員の情報交換会）を実施しました。
- (7) 起業学科は単位認定が伴うインターンシップ、芸術学部は就職の内定を前提としたインターンシップを実施しました。
- (8) 第2回ガイダンス（8月）からはリクルートスーツでの出席を義務付け、就職活動への早期意識付けに効果をあげました。
- (9) 3年次生対象のガイダンスを下記のとおり実施しました。
  - ・就職ガイダンス15回開催。
  - ・職業適性自己理解テスト 1日5回3日間実施
  - ・SPI適性模擬検査 2回実施
  - ・就職対策講座 2日間開催
  - ・公務員採用試験対策講座 2回開催
  - ・4年次生による企業内定者報告会 2回開催
  - ・企業担当者による業界説明会 4回開催
  - ・OB・OG報告会 開催
  - ・就職実践模試(START)エントリーシート攻略テスト 6日間実施
  - ・就職対策講座 5日間開催
  - ・模擬面接：（個別、グループ面接）指導 随時実施

(10) 就職率及び就職率の推移

区分	年度	修了者数	就職希望者数 A	就職			就職しない数	進学者数 (大学院)	不明
				就職 B	未就職	就職率 B/A			
大学院	15	38人	18人	17人	1人	94%	15人	5人	0人
	16	39	11	10	1	91	24	4	12
	17	26	12	9	3	75	10	4	0
	18	17	8	6	2	75	8	1	0
学部	15	352	185	157	28	85	135	32	0
	16	336	201	187	14	93	113	22	0
	17	315	191	182	9	95	87	37	0
	18	337	253	246	7	97	58	26	0

#### 4. 財務関係

##### 主な収入及び支出

(単位：千円)

年 度 科 目	17年度決算額	18年度決算額
学 納 金 収 入	2,656,661	2,757,499
補 助 金 収 入	564,997	498,910
そ の 他 収 入	94,980	148,938
帰 属 収 入 合 計	3,316,638	3,405,347
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 29,504	△ 63,643
消 費 収 入 の 部 合 計	3,287,134	3,341,704
人 件 費	1,949,997	2,098,278
教 育 研 究 経 費	1,343,680	1,071,778
管 理 経 費	254,000	239,787
そ の 他 支 出	23,663	25,718
消 費 支 出 の 部 合 計	3,571,340	3,435,561

##### ○収支改善対策の具体的取組と効果

倉敷芸術科学大学の教育理念に基づく教育研究を行うために、健全な経営体制となるように下記のとおり改革・改善を行いました。

##### (1) 学生の確保・退学・除籍者の減少

芸術学部工芸・デザイン学科、産業科学技術学部起業学科、大学院（通信制）、通信教育課程におきまして定員割れをしましたが、全体として定員を確保できました。平成19年度以降の学生確保にあたり、志願者の少ない学科については定員減し、志願者の多い学科については定員を増やす準備を行いました。また、入学者が定員以上いても、毎年多くの学生が退学・除籍となり、在籍者数が増えないため、在籍者の目標を定めて、退学・除籍者の減少に努めました。

退学理由として、学習意欲の低下、進路変更、経済状況の悪化が大きな理由ですが、平成17年度から引き続き、必ずチューターが面談し、退学理由やそれに至るまでの経過を必ず書かせるようにして、できるだけ退学しないように指導しました。また、学科により低学年から教員が数名の学生を持つ小人数編成の指導体制を執るなどの試みを行い、全学的に退学減少に取組み、昨年の84名から70名に減少させました。

大学院学生については、定員の50%しか在籍していないために、70%を目標として少しでも入学者を増やす努力をしましたが、機能物質化学専攻以外は定員割れとなりました。

##### (2) 補助金・外部資金の確保

平成18年度は各教員が申請したり、企業と共同研究することで、科学研究費補助金6件、受託研究10件、寄付金など外部資金を積極的に受け入れました。

(3) 事業収入・収益事業の確保

大学の施設、教員を利用して、社会人（団塊世代）を対象とした生涯学習講座の充実に努めました。講座としては、芸術学部では染織、ガラス、陶芸、絵画など、産業科学技術学部ではパソコン、生命科学部では、運動、健康、動物看護など本学の特色ある講座で、専門性を活かした講座をシリーズで考えました。

(4) 教員採用抑制による人件費削減

支出の中で一番大きな支出であり、新学科の年次進行を除き、原則として、平成22年まで採用を抑制します。他大学との差別化の中で特色ある科目を開講する必要がある場合は、専任教員として採用するのではなく、独自の給与体系で期限を切って採用するなどの工夫を行い、人件費の低下に取り組みました。

(5) 業務統合整理による事務の合理化と人件費抑制

各課の業務内容を見直し少人数で業務ができるように整理統合を行いました。但し、学生サービス部門についてはさらに充実させ、学生の満足度を上げるよう努力しました。業務統合により事務職員の削減を行い、人件費の抑制を行いました。

(6) 教育研究経費・管理経費の見直しによる削減

不要照明の消灯など節電に努め原油高による光熱水費の上昇に対応すると共に、節電目標を設定し、達成度に応じた予算配分を行うための検討を行いました。

外部委託している清掃についても、事務棟については事務で行うことで経費の削減を図りました。また、旅費などの経費についても支出目的等を精査して節約に努めました。